

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和5年3月17日

提出区分	実績	整理番号	13	課題区分	A
横断的な課題					
地域重点政策					

諏訪地域振興局

実施機関	諏訪児童相談所	担当課	所属	諏訪児童相談所
事業名	おらほの子どもは、おらほで育てる～地域で育つ、里親養育推進・応援事業		電話	0266-52-0056
			E-mail	suwaiido@pref.nagano.lg.jp

事業の概要	目的 (目指す姿)	里親制度を周知啓発し、養育里親候補者の拡充を図るとともに、里親養育支援の仕組みづくりを通して、住民が力を合わせることで保護者の事情によらず子どもが引き続き地域で育つことができる”里親先進地域諏訪”を目指す。
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長引く新型コロナウイルス感染症の影響による保護者の貧困やいわゆるヤングケアラーの問題など、子どもを取り巻く社会的課題はさらに複雑化しており、関係する複数の機関による横断的な支援の仕組みづくりが求められている。</li> <li>・また、社会的養護を必要とする子ども達の健やかな成長には、可能な限り住み慣れた地域で養育されることが重要である。その手段として里親制度があり、特に「養育里親」への期待が高まっている。しかし諏訪地域の養育里親専任は令和4年2月1日現在7世帯にとどまり、これは長野県全体(203世帯:令和2年度末)と比べても少なく、家庭を求めている子どものニーズに地域が応えられない現状にある。</li> <li>・このため、諏訪地域における子どもを取り巻く課題を明確にするとともに社会のあり方を検討し、また支援の担い手である養育里親等社会資源の制度の普及啓発を図るとともに拡充に向けた取り組みを行う。</li> </ul>
概要	内容 (変更後の内容)	(1) 諏訪地域における子どもを育む社会のあり方検討会の開催(年4回、うち1回は研修会) 構成機関: 諏訪地域の市町村子育て支援・保健・教育各担当課、民間子育て支援機関・団体等 (2) 里親制度と考える地域における子ども支援フォーラムの開催 実施時期: 令和5年2月(1日間) 内容: 里親支援に関する講演及びパネルディスカッション (3) 里親制度紹介パネル展の開催(年6回) 日常的な里子の養育場面や里親制度を紹介するパネルを作成し、地域を巡回するパネル展(公共機関及び商業施設など。1回あたり概ね1週間程度を想定)を開催することで、里親制度について広く周知し、里親登録希望者の新規掘り起こしを図る。
	事業期間	令和4年5月 ~ 令和5年3月

事業費等	(単位:円)			
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考
	諏訪地域における子どもを育む社会のあり方検討会の開催	有識者を招いた検討会(4回)及び研修会(1回)	179,417	助言者及び講師謝金: 57,600円、助言者、講師及び委員旅費: 78,511円、需用費: 28,306円、役務費15,000円
	里親制度と考える地域における子ども支援フォーラムの開催	社咨的養護体験者による講演及び地域支援者によるパネルディスカッション	309,812	講師及びパネリスト謝金: 211,200円、講師及びパネリスト旅費: 60,506円、需用費: 33,106円、役務費: 5,000円
	里親制度紹介パネル展の開催	里親制度紹介パネルの作成及びパネル展の開催(年6回)	160,694	パネルの作成: 160,694円
合計			649,923	

指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	里親制度に関する地域住民等からの問い合わせ件数		30件	36件	○ 達成
	新規の里親登録希望者数		10件	1件	● 一部達成
					○ 未達成

事業実績・成果

・諏訪地域における子どもを育む社会のあり方検討会では、西日本こども研修センターあかしセンター長 藤林武史氏を助言者に招き、今年度は主に、地域の強みや課題の把握と地域における子育て支援体制を拡充するためには官民が協働する必要があることを共有するとともに、そのために今後官民協働によりどのような工夫ができるかなどそれぞれの立場からグループ討議を中心とした検討を行った。また、子育てに関する包括的な切れ目のない支援体制づくりのためには必要不可欠となるケースマネジメント手法について、事例等を通じて実際に体験することで理解を深めた。初年度の取り組みだったが、これまで諏訪地域では同様の取り組みがなく、本検討会を通じて市町村等行政機関と民間子育て支援団体・機関が、互いに顔の見える関係づくりにつなげることができた。

・里親制度普及啓発フォーラムについては、自身が児童養護施設出身者であるTHREE FLAGS氏を講師に招き社会的養護を要する子ども達の現状をテーマとした講演と、地域の支援者によるパネルディスカッションを行い、地域の子育て支援やそのマンパワーとなる里親制度について周知を図った(参加者数69人)。

・里親制度紹介パネル展については、地域商業施設(レイクウォーク岡谷)や市町村図書館・文化センターで巡回開催(6回)した。それぞれの場でチラシ、ポケットティッシュの配布を行い、多くの方の目に触れる機会となった。

・これらの活動を通じて里親制度に対しての問い合わせ件数については目標を達成することができたが、家族内の調整等の課題から実際の登録調査まで進む者は少なかった。

今後の方向性

・令和6年4月施行となる市町村こども家庭センターの設置や地域のマンパワー不足など地域の子育て支援については課題も多い。このため諏訪地域における子どもを育む社会のあり方検討会の継続開催により官民協働した支援体制づくりを図るとともに、里親制度紹介パネル展に併設する相談会を開催することで地域のマンパワーとなる養育里親の新規掘り起こしを図りたい。